

温室効果ガス削減を考慮した発電型汚泥焼却技術の実用化に関する実証事業

H29年度

事業実施者

JFEエンジニアリング・日本下水道事業団・川崎市共同研究体

実証フィールド

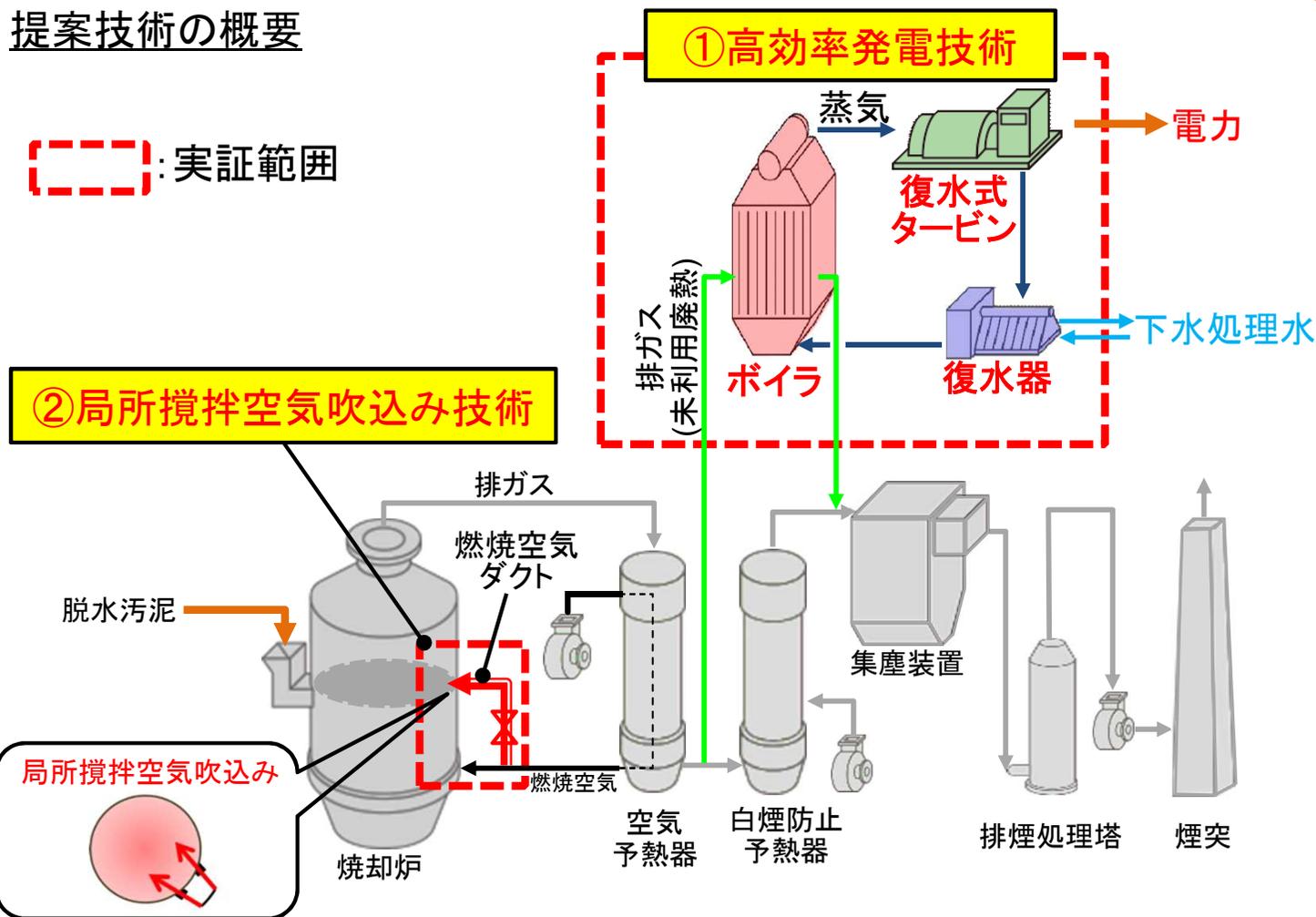
川崎市入江崎総合スラッジセンター

実証概要

汚泥焼却設備からの未利用廃熱を活用した高効率発電技術と、既存の汚泥焼却設備にも適用可能な局所攪拌空気吹込み技術の組み合わせにより、電力の完全自立や大幅な温室効果ガス排出量削減効果等が得られることを実証する。

提案技術の概要

: 実証範囲



提案技術の革新性等の特徴

以下の二つの技術を汚泥焼却設備に付加することで、焼却施設での電力の完全自立や温室効果ガス(CO₂、N₂O)の排出量の大幅削減が可能

(同技術は、既存の汚泥焼却設備に追加することも可能)

① 高効率発電技術

従来、導入が困難であった汚泥焼却規模に対して、高効率復水式タービンと下水処理水を冷却水とする復水器を採用することで、高効率な発電を実現

電力の完全自立化

② 局所攪拌空気吹込み技術

空気吹込み配管の複雑な切り回しがなく、省スペースに設置が可能で、N₂O排出量を抑制